

ソナタ
奏鳴曲 No.63

総主事 水野雄二

「赤レンガの
青年会館」の残り石

神戸YMCA三宮会館の玄関前の植え込みに「Y・M・C・A」と刻み込まれた石が置かれています。縦50cm、横230cm、堂々たる重さをもって鎮座している石板です。これは「Y・M・C・A」の文字と共に刻まれている「1921」が示すように、1921年に定礎式が行われ、翌年に完成した第2期神戸YMCA会館の玄関の上部に取り付けられていたものでした。

終戦直前の1945（昭和20）年6月5日、神戸に飛来したB29による大空襲によって神戸市の東半分が灰燼となった惨事の際、「赤レンガの青年会館」と神戸市民に愛された第2期会館も崩壊してしまいました。焼失した会館跡に、この石板だけが奇跡的にそのままの形で残ったと言われます。「あたかも『ここがYMCAなんだぞ!』と自らの存在を誇示するかのように…」と神戸YMCAの100年史は伝えています。

W. M. ヴォーリズによって設計され、体育館や大講堂を備えた近代的なこの第2期会館が完成したこの頃は、第1次世界大戦後の大不況の時代で、神戸で川崎・三菱の労働争議が起こり、賀川豊彦らが神戸YMCAで日本農民組合を結成した時期でした。そのような中、失業していた若者がこの新会館のロビーにゴロゴロしていたと言われています。以来、様々な若者の集う場としてのYMCA会館でしたが、戦災は無惨にも若者の集う場を奪っていきました。

その後、戦後復興、高度経済成長、バブル崩壊と時代が移り、今年、神戸YMCAは第4期（現）会館を新たに建て替えようとしています。今もまた、若者が多くの課題を抱える時代です。赤レンガの青年会館の残り石がYMCAの存在を今も示すように、多くの若者の道しるべとしてのYMCAでありたいと願います。「ここにYMCAがあるよ!」第5期の新会館の完成まで、しばらくの時が必要ですが、皆様の祈りと期待をお寄せくださるようお願いいたします。

